

鎌倉スクールコラボファンド

～多彩なコラボレーションでワクワクする教育を～

はじめに

本市では、今後訪れる「Society5.0」の社会に対応したスキルや学びに向かう姿勢を子どもたち一人ひとりが身に付けていくことができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善はもちろんのこと、学校の持つ資源に加えて大学や企業など様々な団体と連携しながら、教師も子どももワクワクするような魅力的な学校づくりを進めています。

より魅力的で
豊かな学びを、
鎌倉の子どもたちに。

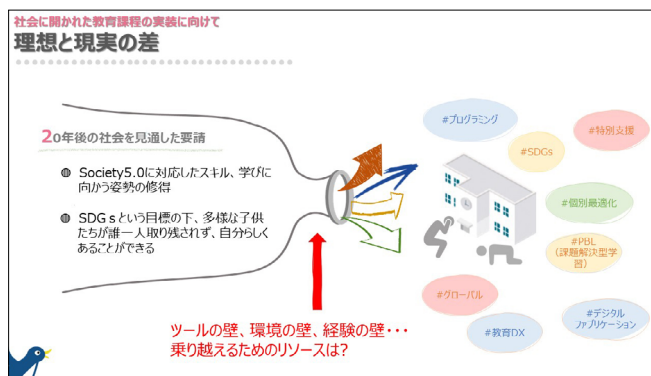
人材 × テクノロジー
知識・経験 最先端技術

鎌倉
スクールコラボファンド

そうした多様な教育活動の中から、今回は「鎌倉スクールコラボファンド（以下「鎌倉SCF」という。）」について紹介します。

1. 鎌倉スクールコラボファンドとは

リアルな社会課題に基づくプロジェクト型学習やプログラミング、ICTも活用した個別最適な学び。激しい社会の変化の中、新たな社会の要請に応えた教育の実現と、現実にあるリソースとの間で板挟みになり、公立小・中学校は活路を見出そうともがいています。



理想と現実の差のイメージ

仮に一般の企業でしたらどうでしょうか。自社だけで作ることができない製品があったとき、他社に製造委託したり、部品の供給を受けたり、技術提携をしたり、様々な事業者と協力して作っていきます。車一つとっても、ネジを作っている会社、電装品を作る会社、塗料を作る会社と非常に大きなサプライチェーンから成り立っています。公教育の現場も同様に、様々な人との連携やコラボレーションで課題解決できることがあるのではないのでしょうか。しかし、様々な知見や蓄積を持つ外部の組織と連携・協働すれば実現できそうな教育活動も、資金源がないために諦めざるをえないこともたくさんあります。こうした状況を打破して、未来を生き抜く力を育むことができる魅力ある教育活動を、鎌倉の豊かな人材・NPO・企業・大学等との素敵なコラボレーションを通じて実現したい。これが鎌倉SCFの願いです。

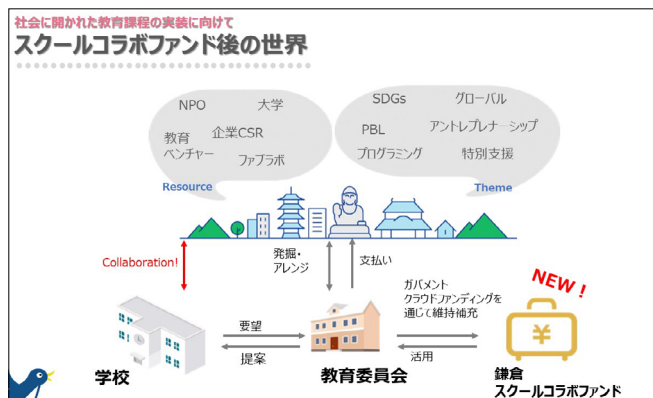
学校の夢の実現・課題解決のためのコラボレーションを持続的に生み出す仕組みを整えることで、できそうだなと思える教育活動が一気に広がってだけでなく、新しい学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」を単なるスローガンではなく実質的なものにしていくことができます。

また、この取組は鎌倉だけではなく「社会に開かれた教育課程」の実現に悩む他の自治体にも大きな勇気を与えることになるのではないかと考えています。

2. コラボレーションを支援する仕組み

実際に外部とコラボレーションして、SDGs をテーマとした課題解決型学習や最先端技術を活用した学びなど、時代の要請に応えたワクワクする教育を学校で実現するためには、資金が必要です。そのお金を一般財源から捻出することができれば良いのですが、厳しい財政状況の中、簡単には予算化することはできません。

そこで、ふるさと納税の仕組みを活用したガバメントクラウドファンディングという制度を用いて、社会の皆様から理解を得て支援いただいた資金を鎌倉 SCF として活用することで、学校が主体となりながら大学や企業等とコラボレーションし、多彩なコンテンツを用いた学びの場を提供するというサイクルを令和2年度（2020年度）に作りました。



スクールコロポファンド後の世界のイメージ

これまでに3回ガバメントクラウドファンディングを実施し、合計で約 1,500 万円の支援をいただきました。

3. 活用事例

鎌倉 SCF 運用の初年度となった令和3年度(2021年度)は、小学校1校と中学校1校が、「SDGs をテーマとした課題解決型学習」(総合的な学習の時間)に活用しました。

SDGs といっても、子どもたちの興味や関心は一人一人違います。地球温暖化に関心のある子どももいれば、マイクロプラスチックの課題を探究したい子どももいます。難民問題、森林保護、外来種、核兵器の廃絶、LGBTQ・・・子どもたちが希望する探究テーマはまさ

に十人十色。



ベトナム難民の方から体験談を聞く子どもたち

そのため、担任が全ての探究に個々に伴走することは難しいですが、鎌倉 SCF を活用して NPO や大学と連携し、子どもたちが関心のある分野ごとにアドバイザーや伴走者をつけることで、子どもたち自らが設定した様々な社会課題の探究にじっくりと取り組むことができました。令和4年(2022年)3月に行われた小学校の発表会では、自分たちの行ってきた取組を「学習」ではなく「活動」と表現し、「ジブンゴト(自分事)」として捉えていたことに驚かされました。



SDGs をテーマとした課題解決型学習に取り組んだ小学校における発表会の様子

例えば、森林保護の活動をしていたチームは、「最初、ブラジル・アマゾン地域の熱帯林保護や NGO への寄附について考えていたが、本来森林は自分たちの身近にあるもので、地域の森林を大人たちと一緒に守っていくことが一番大切なことだと気付いた」として、社会課題をジブンゴト化し、実際に地域の活動に参加したことなどを発

表していました。

また、中学校の発表会では、例えば LGBTQ + (性的マイノリティーの人を表す総称の一つ) について探究した生徒たちは、性別で分けるような言葉・表現について鋭く問題を指摘すると共に、自分たちの制服に着目し、どんなデザインであれば、誰もが自由に自分自身を表現できるかを考え、紹介していました。

1. 小学校	学校名	対象学年	教科	テーマ	概要
	御成小学校	第4学年	総合	みんなが暮らしやすい社会を	介助犬・聴導犬、車いすバスケット体験を通じて、だれもが暮らしやすい社会について学びを深める
	小坂小学校	第6学年	総合	未来へつなぐ学校づくり	子どもたちが創作曲した曲で、誰もが踊れる運動会のダンスを制作し発表。また、よりよい学校づくりに向け、委員会活動を中心に学校生活の課題と解決策を考え検証、下級生へ引き継ぐ課題解決型学習を実施
	玉縄小学校	第6学年	総合	地球に優しい未来を	子どもたちが集めたプラスチック教材を実際に破碎して新たな資源として生み出す実験
	山崎小学校	第5学年	社会	森林を守るための必要性	国土の森林資源の分布、森林整備の取組を通じて、学校近隣の谷戸や校内植物の役割について学ぶ
2. 中学校	学校名	対象学年	教科	テーマ	概要
	第一中学校	第3学年	総合	防災広告を用いた想像力及び創造力育成	広告の専門家を呼び防災に関する啓発ポスターを作成、地域や市内企業等の協力を得て提示し、効果分析を実施
	深沢中学校	第1学年	総合	シティズンシップ教育	これまでに平和・異文化などのテーマで多様な他者を理解してきた上で、自己理解を深めウェルビーイングに繋げる
	御成中学校	第3学年	英語・総合	国際理解	日本の文化の紹介、外国の文化や価値観をJICA研修員との英語によるコミュニケーションにより理解を深める

令和4年度鎌倉 SCF を活用した事業一覧

さらに、令和4年度（2022年度）は活用する学校が7校に増え、鎌倉 SCF を通じて、子どもも教師もワクワクするような取組がたくさん生まれました。例えば、シティズンシップ教育、防災×広告、介助犬・聴導犬を招いた福祉に関する総合学習、学校教材のプラスチック再利用に関する探究、JICA 研修員とのオールイングリッシュ交流などの取組が実現しました。



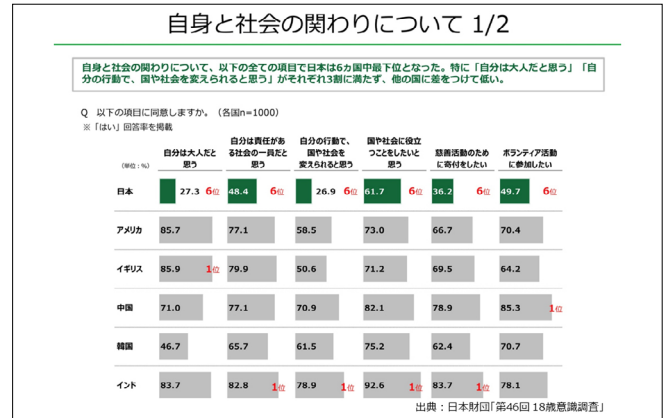
介助犬のデモンストレーションにくぎ付けになる子どもたち

令和5年度はさらに活用校が増える見込みです。

4. コラボレーション後の子どもたちの変化

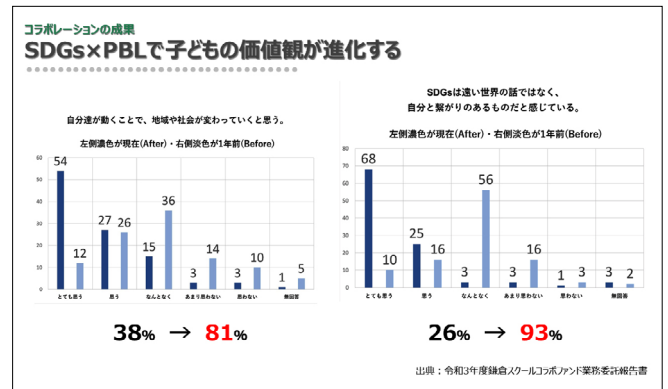
日本の子どもたちは自己肯定感が低く、自分は国や社

会に影響を与えられないという感覚を持っているという国際比較データがあります。様々な教育関係の会議で引用され、我が国の学校教育の進化・変革の必要性の議論の基盤となっています。



上記に示すデータでは「自分の行動で、国や社会を変えられたいと思う」と考える子どもの割合は 26.9% で、調査対象国のうち最下位となっており、この傾向は長らく続いています。

そこで、令和3年度（2021年度）の小中学校での活動において、1年間の活動の実施前後で子どもたちの意識状況のモニタリングを行いました。



モニタリング結果

その結果、「自分たちが動くことで、地域や社会が変わっていく」と思うかどうかという質問に対して、80%を超える子どもが「とてもそう思う、そう思う」と答えるに至りました。

これまで最も多かった「なんとなく」という回答が激減し、「とてもそう思う」の回答が最多となったのは、素晴らしい成果であると考えています。

こうしたことを踏まえれば、今回の活動を通じて、子どもたちは社会課題をジブンゴトとして捉えて、実際に自

分が動けば社会が変わるという実感を手にし、持続可能な社会の創り手としての第一歩を踏み出すことができたのではないかと考えています。また、小中学校の学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標においては、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」ことが掲げられていますが、その目標達成のために大変効果的な活動であったのではないかと考察しています。

実際に鎌倉 SCF を活用した先生からも「子どもたちが身近な課題をジブンゴト化して課題解決型学習に取り組むことができた。」といった声や「コロナ禍にも関わらず、たくさんの活動や専門家と直接お話できたことは鎌倉 SCF があったからこそ。従来の総合の学習の時間では、教師ごとに任されて学びの幅が狭かったのですが、鎌倉 SCF によって様々な人と繋がり、学校という枠を越えた学びができるようになった。」という声をいただきました。

5. 鎌倉 SCF の更なる普及と資金確保に向けて

ここ数年で、各種新聞や雑誌、教育資料など、多くの教育メディアに取り上げていただき、鎌倉 SCF は一定の認知をいただくようになってきました。しかし鎌倉 SCF は「市民の皆様」をはじめとする理念への共感者にご支援をいただいて成り立っている施策にも関わらず、市民の皆様にはこの取組がまだまだ認知されていないという現状があります。市ホームページや鎌倉市教育委員会 note などの SNS で発信しても、教育関係の情報を積極的に取りに行く方々には伝わりますが、それ以外の方々にはなかなか届きません。



鎌倉市教育委員会 note 見出し画像の一例

この悩みと、資金調達ソースの多様化といったニーズに両方応える施策の一つとして、「鎌倉 SCF 寄附型自動販売機」の設置を令和4年度から本格的に開始しました。この自販機で飲料を購入いただくと、飲料メーカーさん経由で鎌倉 SCF へ一定の割合(概ね1本あたり数円程度)でご寄附いただける仕組みとなっています。自販機のラッピングも鎌倉 SCF 専用のデザインのため、「お、なんだこれは?」と皆様に知っていただくプッシュ型の広告塔にもなると考えています。

現在、湘南モノレールの駅構内他、計4台を設置していますが、将来的には100台設置を目指しています。



実際に設置した寄附型自動販売機

おわりに

今後もコラボレーションによる「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて、子どもたちが社会の変化を肯定的に捉え、自分も社会に良い影響を与えられることにワクワクする、そんな教育を実現していきます。

[鎌倉市教育委員会 note](#)

(鎌倉スクールコラボファンドの取組などを紹介しています。)

